

日本民教連 3月代表者会のお知らせ

日本民教連3月代表者会を下記のように開きますのでご出席ください。

記

とき：3月13日（火）18時半より

ところ：東京労働会館（ラパスホール）地下会議室

（学習会）

物語りと格闘する語り手「デューク」（江國香織）を中心に

中村龍一さん（日文協）

（議題）

1) 編集部より3月号について
図書紹介について

2) 加盟団体一覧表の活用（1999年度版→2012年度版）
2012年度版への協力を
会員数・会費・機関紙などの交流

3) 6. 10集会について

4) 会計より

5) 4月代表者会議の学習について
吉野典子さん

12/2

大石さん.

6) そのほか

* 加盟団体一覧表作製（1999年度版→2012年度版）にあたって
まだ提出されていない団体は、会員数、会費、機関紙の有無などについて調べてきてください。

埼玉養護教諭サークル青い表規約

2009年2月11日

1. 名称 この会は（埼玉養護教諭サークル青い表）という。
2. 目的 ① 会員相互の保健室実践を交流し学びあい、養護教諭の仕事を深めよう。
 ② 全国のサークルの仲間の実践に学ぼう。また、機関誌「保健室」を購読して、養護教諭の実践研究を学んでいこう。
 ③ 子どもの権利や健康権を保障するために、関連する研究団体と協力し、連携していこう。
3. 会員 ① この会の目的に賛同する者。
 ② 年会費を納入した者。
4. 事業 ① 例会・学習会をもつ。
 ② 機関紙を発行する。
 ③ 全養サに加盟し、研究集会への参加を積極的にすすめる。
 ④ 機関誌「保健室」の普及と協力をすすめる。
 ⑤ 他の民間教育研究団体と協力し、連携する。
5. 運営 事務局は代表自宅におく。
6. 会費 年間1000円とする。

2011年2月19日改正

2012年3月13日

2011年夏季研究集会調査追加報告

日本民教連世話人会／研究部・組織部

『日本文学協会 国語教育部会』

- ・参加者は120名。
- ・集会テーマ：〈文脈〉を掘り起こす ―文学教育と〈語り〉
- ・全体会でのディスカッションや、部会での話し合いで、〈語り〉についての多様な問題を出し合うことが出来た。

『子どもの遊びと手の労働研究会』

- ・参加者は200名。
- ・集会テーマ：子どもとともに遊びと手しごとを！地域ぐるみで子どもたちの豊かな生活と学びをつくりだそう
- ・講演：鳥取県、鳥取県教育委員会、鳥取市、鳥取市教育委員会、ものづくり協力会議など。

『全国障害者問題研究会』

- ・参加者数3000名
- ・165本のレポートをもとに50分科会で論議。
- ・20代の参加者が多かった。
- ・後援：大阪府、大阪府教育委員会、大阪府社会福祉協議会、大阪市、大阪市教育委員会、大阪市社会福祉協議会、羽曳野市、羽曳野市教育委員会、羽曳野市社会福祉協議会、堺市、堺市教育委員会、堺市社会福祉協議会、大阪特別支援学校長会、NHK厚生文化事業団近畿支局、朝日新聞厚生文化事業団大阪事務所、読売テレビ、サンテレビ、産経新聞大阪本社、関西テレビ放送、公益財団法人毎日新聞大阪事業団、テレビ大阪、株式会社毎日放送

『児童言語研究会』

- ・参加者339名は昨年と同規模。2年前よりは70名減少。5年前よりは250名減。
- ・初参加者や20代30代の参加者も目立っていた。（インターネットのホームページを見ての参加者も増えている。）
- ・アンケートから：教育現場での管理的な締め付けと、教科書の内容の多さに悲鳴を上げていることが見えた。
／授業をめぐる全体シンポジウムが好評だった。授業者の姿勢、子どもの育ち、他団体の意見者
／子どもとのつながりのある授業、子どもが育つ授業、学級経営とからんだ授業など、困難な状況の中で、望みを持てたことに参加の意味を感じた声が多かった。

『技術教育研究会』

- ・参加者 90 名、1996 年の大会以来キープしていた 100 名以上を達成できなかった。
- ・年齢構成は、20 歳代から 70 歳代まで。各分科会の世話人は若い世代に交代しつつある。
- ・新潟県教育委員会の後援も得られた。

『全国養護サークル協議会』

- ・参加者 538 名、地元岡山からは 244 名と多くの参加者があった。「かたつむり」「いちごつなぎ」という 2 つのサークルが、きめ細かく準備されとても温かい集会でした。
- ・緊急企画「東日本大震災現地レポート報告」の教見先生の講座には多くの参加者があった。
- ・後援：岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会、津山市教育委員会はじめ、真庭市、美作市、井原市、笠岡市、高梁市、新見市等の教育委員会。

『日本演劇教育連盟』

- ・参加者は延べ 600 名。
- ・60 回の記念企画として行った。
- ・後援：東京都教育委員会、日本演劇学会「演劇と教育」研究会、江東区教育委員会、東京都小学校児童文化研究会、全国公立小学校児童文化研究会、東京都中学校演劇教育研究会、全国中学校演劇教育研究会、東京都中学校文化連盟、全国高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、東京都高等学校演劇連盟、日本児童青少年演劇劇団協同組合、(社)日本児童演劇協会、日本民間教育研究団体連絡会

『美術教育を進める会』

- ・参加者数 100 名。
- ・3・11 東日本大震災・原発事故、東京の計画停電等の影響で、当初予定していた会場が使用できなくなり、急遽会場を「エデュカス東京」に変更した。予定では 3 日間の開催であったが、2 日に短縮した。
- ・後援：なし。

『人間の歴史の授業を創る会』

- ・参加者 18 名。
- ・2 日間の日程の中で、人間の歴史や、子どもの側に立った授業実践の報告のほか、中国古代史のフィールドワーク（今冬実施予定）に関する学習も行った。

『日本作文の会』

- ・参加者は 850 名。創立 60 周年記念大会。
- ・作文教育運動をこれからの若い先生にどう引き継いでいくかが今大会の課題であった。

『産業教育研究連盟』

- ・参加者 31 名（北海道からは 11 名）。大地震のため、年度途中の計画細案構想中に会場を再度検討したため、参加者数が減少した。
- ・新学習指導要領の完全実施を前にして、その関係のレポート・討論が多く・深く行われた。
- ・後援：北海道教育委員会、函館市教育委員会、農山漁村文化協会

『全国進路研究会』

- ・参加者 150 名。
- ・講演：中嶋哲彦氏（名古屋大学教授）、「『子どもの貧困』と学校教育」。

『科学教育研究協議会』

- ・参加者 990 名（大会参加者 468 名、お楽しみ広場 522 名）。
- ・後援：栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会、宇都宮市宇都宮観光コンベンション協会、下野新聞社宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局、朝日新聞宇都宮支局、毎日新聞社宇都宮支局、NHK宇都宮放送局、とちぎテレビ、栃木放送、日本物理教育学会、日本化学会、日本地質学会、日本史文学会、応用物理学会、日本理科教育学会、日本科学史学会、日本地震学会
- ・宇都宮大学の後援がとれ、会場費が無料になった。

『日本文学教育連盟』

- ・参加者 127 名。
- ・記念講演 —「江戸職人もの」の面白さを！— 「なぜ書くか、何を書くか」 児童文学者・岩崎京子氏。
- ・会員と会員外の参加者をどう確保するかが課題。

『新しい絵の会』

- ・参加者は 500 名（ただし有料参加者は 350 名）
- ・記念講演（アーサービナード氏）や学生の参加費は無料とし、市民・若者に窓口を広げる努力をしている。
- ・参加者から要望がある「実技講座」（理論よりも体験を通した美術独特の学び）を初日と 3 日目の 2 度の機会を用意。主催者には大変な準備（材料と内容、講師等々、計 20 講座）が必要です。
- ・参加者を増やすために、幼児～小学校（低・中・高）、障害児を複数の分科会として、提案者や係も含めて器を広げる努力をしています。
- ・学校教育だけでなく地域の塾やアトリエ等の美術教育関係者の講座や発表も組織しています。
- ・今日的な課題を基調提案で理論的に提案するだけでなく「作品で語る」という形で、幼児～思春期、障害児までの発達にそった実践を全体会で示すことで、会の主張と方向を

明らかにしています。

- ・ 課題別の講座をもって、みんなで学習し学び合う機会を広げています。
- ・ 実行委員会が組織的に実行しやすい首都圏（東京、埼玉、神奈川、千葉）グループと、近畿圏（大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀）のグループで隔年開催を基本にし、春の研究会は夏の大会開催地で大会準備を含め、冬の研究会はシンポジウムと総会を含め横浜開港記念館（重文）に固定しています。
- ・ 後援：埼玉県教育委員会の後援を得た。各学校へのピラ配布が教育委員会の集配を通して出来た。
(学校教育及び指導課でなく、社会教育の窓口が有効であり、無理なく後援がとれる。)

『全国商業教育研究協議会』

- ・ 参加者 26 名。
- ・ 集会サブテーマ「学習指導要領改訂と私たちの課題」。～検定合格至上主義の現場で、経済学習を基礎にする教育課程をめざすことが課題～。
- ・ 記念講演：「内部留保から見る日本企業」 小栗崇資氏（駒座大学）
- ・ 参加者を増やすことが最大の課題。

『教育科学研究会』

- ・ 参加者は、500 名。第 50 回記念大会。
- ・ 集会テーマ「子どもとともに危機を生きる」～大震災の中で、何を学び、何を变えるか～
- ・ 記念講演：金子 勝氏（慶應義塾大学）
- ・ 佐貫浩委員長：15 年にわたる新自由主義の「教育改革」を検証し総括。その社会破壊をもたらした格差・貧困問題と「自己責任」に帰結する風潮を克服し、原発安全神話からの撤退を提案。また、これからの希望を生み出す復興への創造性と、社会と教育の教育力を再組織する構想も提起。

『音楽教育の会』

- ・ 参加者 998 名。参加者の半分は保育士と思われる。若者が多数参加。
- ・ 基調提案：リレートーク「京都サークルが大切にしてきたこと」若い人たちの実践報告。
- ・ 全国の実践テープを聴く⇒討論。
- ・ 参加者みんなでリズム表現・歌う活動をする。
- ・ 共同研究者（丸山亜季、林 光、志村 泉）のピアノで歌う、演奏、話をきく。マリンバ演奏の通崎陸美さんのゲスト演奏も。
- ・ 東北からの参加者と現地報告。会として義捐金を募り、常任委員が現地に持参した。
- ・ 後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会

『新英語教育研究会』

- ・参加者：347名。学生17名、初参加21名。会員60%、未会員40%。
- ・記念講演「短歌とサイエンス～その感動と表現」諏訪兼伍さん（元日本福祉大学学長）
- ・特別講座「被曝体験を語る」～第五福竜丸乗組員として～ 大石又七さん
- ・半田市福祉文化会館を会場にして、宿泊は近隣のビジネスホテルに分散。初めての都市型大会（09年東京大会を除く）。
- ・小・中・高・大の年齢別講座と常設10の分科会、他にワークショップ、文化行事と盛り沢山。スリム化してゆとりある運営が望ましいか？

『漢字指導法研究会』

- ・参加者62名。ここ数年、毎年1割ずつ減少。ただ、若い教員の割合が増えた。
- ・2010年、改定常用漢字数が告示され、学習負担が大きくなったが、中・高の国語教師でも関心が高いとは言えない。
- ・特に小学校では、漢字指導といえども、学級づくり、子どもの人間関係づくりを強く意識した実践をアピールした。
- ※同志会や日作等の特別講座について、「各民間研の協同関係」が必要なことは言うまでもないが、今回の特別講座の形が良いか否かは議論の余地がある。

『学力の基礎をきたえどの子も伸ばす研究会』

- ・参加者 420名。出張や研修に対する管理強化、現場の多忙化で参加者の漸減傾向が見られるが、年配から若い方まで幅広い層が参加。
- ・基調提案：深沢英雄氏の話聞いた感想「学力研が大事にしていることが分かり易く伝えられていた」「若い方のレポートが共感をもって受け止められていた」
- ・学年別分科会：8分科会（小1～小6、中高、家庭教育）25レポート。学年ごとに基調提案が用意されている。また、分野別講座（11講座）・学年別もその報告は、6月のセミナー（合宿研）を経て出されており、質的に向上が見られ好評なものが多かった。
- ・後援：大阪府教育委員会。

『地理教育研究会』

- ・参加者は154名。
- ・基調報告：日本史必修、地理基礎、防災教育
- ・記念シンポジウム：現代世界は今、南から北を見る
- ・特別報告：高校生による災害ボランティアの実践報告。
- ・現地見学：①浅草、②羽田空港周辺。

『NPO法人 家庭科教育研究者連盟』

- ・参加者は153名。
- ・記念講演：「なぜ男女平等はねらわれるのか」 中里見 博（福島大学）
- ・テーマ別分科会：①レインボープラン＝循環型農業の成果と課題
②教材としての教科書を見る目 ー子どもにとっての教科書

- ③「人権一自立，共生」教育と性の問題を考える
- ④家庭科で何をどう教えるかー子どもの生活実態に迫るー
- ⑤米沢地方の「刺し子」について

・閉会行事で、山形大学の学生が「花笠音頭」を踊って盛り上げてくれた。

『日本生活教育連盟』

- ・参加者は、388名。
- ・記念講演：「反貧困一人間らしい社会の再生をめざして」 講師：宇都宮健児氏
- ・分科会：13分科会、レポート88本。
- ・生活教育講座（6講座） 実技実践講座（6講座）
- ・緊急報告「東日本大震災被災地とつながろう」
ー地域の復興なくして学校の再生なしー 石巻市雄勝小学校、徳水博志氏

『学校体育研究同志会』

- ・参加者は 約600名強。男女ほぼ半数ずつ。校種別：小学校7割、中高1割に満たない。
- ・20代・30代が半数を超え、活気ある大会となった。
- ・例年に比べ、関西圏からの参加者が少なかった（原発事故との関係か）。
- ・民教連各団体の協力で16の特別講座が用意でき、約250名ほどの参加があった。

『数学教育協議会』

- ・参加者は約850人。
- ・公開授業：子ども（+保護者）を相手に、さまざまな教具やゲームなどを駆使して、「手で作り、手で学ぶ」授業を展開。
- ・分科会：特別支援・幼・小・中・高 23に分かれて実践の報告・提案をもとに議論交流。
- ・基礎講座：校種別15に分かれ教教協の成果を学び研究。若い教員や学生に人気。
- ・閉会行事・記念講演：福井農林高郷土芸能部の創作和太鼓、「競争原理を越えて学びと育ちの共同をつくる」中嶋哲彦氏（名古屋大大学院教授、元犬山市教育委員）講演は一般公開。
- ・課題別分科会、教具展、ポスター展、AMIサロン（講師の設定したテーマについて深く楽しく学び合う）、速報（A4版、47号まで）。

『子どもの人権・自由と民主主義を守る全国協議会』

- ・参加者は7名。初参加の方も含めて20代から80代まで多様な方。
- ・学習：富士山の成り立ち。人類最高の不作 原子力発電とは。
- ・フィールドワーク：猿橋熔岩流、西湖蝙蝠穴、風穴、小御嶽神社、富士山レーダードーム、柿田川、長八記念館、岩科学校。

『歴史教育者協議会』

・参加者は642名。減っているが、少しずつではあるが、若い教師の参加が見られるようになっている。

・4コース現地見学：軍都小倉と文学散歩、大陸侵略と玄関門司港と戦争遺跡、八幡製鉄所と北九州の公害、大宰府政庁と九州国立博物館。

・記念講演：「アフガンに命の水を」 福元満治氏（ペシヤワール会事務局長）。

・地域に学ぶ集い：文化財の保存運動、魏志倭人伝と邪馬台国、石炭産業と朝鮮人の強制連行、北九州の公害反対運動と環境教育、青春学校と夜間中学、三井・三池のたたかい、北九州の産業遺跡、福岡の戦前・戦中・戦後の女性たち、教科書問題、日韓歴史教育交流、大震災被災地東北からの報告。

・分科会：第Ⅰテーマ 歴史と現代 9分科会、第Ⅱテーマ 地域・子ども・授業 15分科会 特設：日韓歴史教育交流

・現地見学：石炭産業と筑豊炭田の光と影

・大会中に新入会員が2ケタになった。

・教科書問題の取り組み重要性が確認された。市民・保護者とどう運動をすすめるか。

・東日本大震災、東京電力福島原子力発電所事故による被害から何をどう学ぶのかが多くの分科会で話し合われた。

・アピール：『日の丸』『君が代』の強制を許さず、思想良心の自由、教育の自由をまもりぬこう」「震災・原発事故を子どもたちと語り、学びあおう」

『全国民主主義教育研究会』

・参加者は46名。

・特別報告：「東電・原発事故と日本の原子力・エネルギー政策」 舘野 淳氏（核・エネルギー問題情報センター）

・地域報告：「神奈川の教育改革とは何であったか」 豊 雅昭氏（元神奈川高校教員）

・記念講演：デモクラシーの現状と課題—『未完の革命』としての平和憲法の視座から— 千葉 眞氏（国際基督教大学教授）

・分科会：・民主主義思想、・憲法と平和、・学力と授業づくり、・自立と連帯を育てる&経済と暮らし レポート数18本

・基調報告：安達三子男（常任委員）

『全国農業教育研究会』

・参加者は61名。肝腎の中学校技術科の先生は少なかったが、大学教育学部の学生、小学校の先生、中学校の先生に伴われた中学生が4人など、多彩な参加をみた。

・全農研の会員（農業高校の教員）が講師：「土を理解する」「ぼかし肥料の作り方」「道具をつかいこなす」「白菜の栽培」など実習。暑熱の農場で汗にまみれたが、好評であった。

・中学校の技術・家庭科で来年度から「生物育成」が必修として実施される。中学校で栽培・飼育教育がとりあげられる、この機会に園芸高校の農場を借りて実技講習を実施し

た。

- ・後援：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会

『全国学校事務職員制度研究会』

・参加者：開催地を予定の福島県郡山市から箱根湯本温泉に急遽変更し、運営スタッフも整いきれない中で第35回全国研究大会（福島大会 in 神奈川）の開催だったが、25都道府県から参加者150名を得られた。

・子どもが今を幸せに生きられない、将来に希望を持ってない状況は、今回の震災・人災で浮き彫りになり、深刻さが増した。

- ・基調提案 「子ども発、子ども行き～しあわせの土台づくりを学校で～」

- ・記念講演 「『子どもの貧困』と子どもの権利」 世取山洋介氏（新潟大学）

・分科会：1子どもの学習権と就・修学保障、2学校予算と教育費、3学校環境と施設づくり、

・テーマ別学習会：Aすべての子どもたちに安全と発達の場を、B 学校事故の背景と課題

・東日本大震災に関連して：福島の学校、被災した転入生を受け入れた他県の学校での就学支援のとりくみのレポートがあった。討論の中で、放射線被ばくへの深刻な不安や、子どもの生活実態などが語られた。福島の保育・小・中・高で調査した丹波史紀さん報告：学習会で小さな子どもが、「(被曝したから) 私たち、お嫁に行かれないんだよね」と言い合っていた、とレポート。

・「安心して学校へおいで」と言えるようにするために、今すぐにでもやらなければならないこと⇒就学援助制度をもっとわかりやすく保護者に知らせる努力、校舎の安全環境チェックなど、⇒「子ども発、子ども行き～しあわせの土台づくりを学校で～」。

『“人間と性”教育研究協議会』

・埼玉県内で開催予定であったが、震災の影響で、延期し、会場も東京（大東学園高校）に変更して、12月24・25日に開催した。

・後援：当初会場は1日目と3日目が和光市、2日目が埼玉大学だったので、和光市、和光市教育委員会、さいたま市教育委員会、埼玉大学などの後援をはじめ、他民間メディア多数がとれていた。他に（財）家族計画国際協力財団、／（社）日本家族計画協会、／性と健康を考える女性専門家の会、／“人間と性”教育研究所など。

子ども・教育・憲法を守る合同集会

日時:2012年6月10日(日)13時~16時

場所:東京労働会館7階(ラパスホール)

JR大塚駅徒歩10分

講演 小沢隆一さん(東京慈恵会医科大学教授・憲法学・政治学)

1959年生まれ 東京慈恵会医科大学教授 憲法学 一橋大学法学部卒

1990年に静岡大学助教授・2000年に同教授を経て2006年から現職

著書に、『予算議決権の研究』(弘文堂)、『現代日本の法』(法律文化社)、『ほんとうに憲法「改正」していいの?』(学習の友社)、『はじめて学ぶ日本国憲法』(大月書店)、『ここがヘンだよ日本の選挙』(共著・学習の友社)、『クローズアップ憲法』(共著・法律文化社) 『民主党政権下の日米安保』(共編・花伝社) など

日本財政法学会理事、元民主主義科学者協会法律部会事務局長

小関啓子さん(杉並の教育を考えるみんなの会事務局長、元教員)

参加費 500円 大学生 300円

【ご案内】

大阪維新の会が憲法改正を施策に掲げて国政までも大きな影響を及ぼしています。選挙民の支持による「果敢」という教育への政治介入が横行しています。日本国憲法と憲法九条を守ることがいよいよ大切な課題になっています。

日本民教連・都道府県民教ならびに日本民教連九条の会と日本子どもを守る会では、「子ども・教育・憲法を守る合同集会」を企画しました。

講師は、東京慈恵会医科大学の小沢隆一さんです。小沢さんは、元民主主義科学者協会法律部会事務局長であり、2010年6月26日(土)「シンポジウム 軍事同盟のない世界へー改定50年の安保条約を問う」が明治大学駿河台キャンパス・リバティタワーにて開かれたときには、見事な司会をされました。そのシンポジウムの成果は、『民主党政権下の日米安保』(共編・花伝社)としても刊行されています。

また、実践的な視点で杉並の教育を考えるみんなの会小関啓子事務局長にも講師をお願いしました。

主催:日本民教連・都道府県民教、日本民教連九条の会、日本子どもを守る会



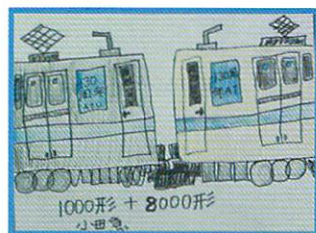
描く・作る・創る・想像する…

・見る
・感じる
・共感する

どの子にも表現する力と生きる喜びを伝えたい。そんな思いのあなたと共に学びあえることを願っています。

学ぶ・語る・交流する…

あなたと共に



■奈良市教育委員会後援

図工・美術教育 新しい絵の会 **春季研究会**

兼 第6回関西美術教育研究集会

○4月28日<土>・29日<日>

○奈良教育大学附属小学校 (アクセスは裏面)

○参加費 1000円 (会員 500円・学生無料)

○新しい絵の会・関西美術教育研究会 共催 <http://www.2u.biglobe.ne.jp/~atarasii/>

予告 第53回 **図工・美術教育全国研究大会**
IN 奈良

8月2日(木) ~ 4日(土)

- 会場 奈良教育大学 及び 附属小学校
- 後援 奈良県教育委員会・奈良市教育委員会・奈良教育大学 他



◆楽しい実技講座、実践検討会、理論講座など…。今からスケジュールにマークを！



奈良教育大学付属小学校

□奈良市高畑町
奈良教育大学内

□アクセス
近鉄奈良駅・JR奈良駅から、それぞれ市内循環バス外回り（2系統）で高畑町下車、すぐ。近鉄奈良駅からは10分、JR奈良駅からは15分。運賃200円。

ビジネスホテル
(いずれもJR奈良駅至近です)
コンフォートホテル奈良 (0742-25-3211)
スーパーホテルLOHAS (0742-27-9000)
サンホテル奈良 (0742-25-2111)
スーパーホテルIR奈良 (0742-20-9000)
奈良ワシントンホテルプラザ (0742-27-0410)

- ◆**実技入門講座** (4月28日)
 - *水彩絵の具入門Ⅰ…「初めての水彩絵の具」
 - Ⅱ…「水彩絵の具と表現のひろがり」
 - *工作入門…教室ですぐ使えて、楽しい紙工作
 - *粘土入門…立体学習の基礎と安全な手づくりねんど

- ◆**作品検討会** (4月28,29日)
 - *どの子にも表現する力と生きるよろこびをと願いながら、目の前の子どもたちと日々向き合うなかで生まれた実践です。
 - *幼・保、小・中・高、特別支援学校の子どもたちの作品をもとに、とりくみの実際を報告します。レポーターは関西、首都圏からも予定しています。

- ◆**全体会** (4月28日)
 - *「特別なニーズのある子とくらしの絵」(仮題)
特別なニーズのある子どもたちが、自分のくらしと懸命に向き合いながら表現していった実践の報告です。
 - *「いまこそサークルに！-若い先生方を迎えて」(仮題)
奈良県サークル連絡協議会の事務局局長が、教育や子どもの現状をふまえて、サークル運動の展望を語ります。

日程

28日(土)

9:30 10:00 12:00 13:30 15:00 16:30 17:30

受付	実技入門講座	昼食	全体会	作品検討会	作品交流会	懇親会
----	--------	----	-----	-------	-------	-----

29日(日)

9:00 9:30 11:30 12:00

受付	作品検討会	連絡
----	-------	----



申し込み

- ◆e-mail・郵送・FAXでお申し込み下さい。
- 当日参加も出来ますが、資料準備の都合上、できるだけ事前申し込みにご協力をお願いします。

ふりがな お名前	住所 〒 Tel e-mail
所属(勤務先)	参加希望実技講座(○で囲んで下さい) 絵の具入門Ⅰ ・ 絵の具入門Ⅱ ・ 工作 ・ 粘土

- ◆ぜひ、学級の子どもの作品をお持ちください。
- ◆参加申し込み・問い合わせ 山室 光生 〒630-8301 奈良市高畑町 奈良教育大学付属小学校 (Fax) 0742-27-9283 (e-mail) yamamuro@nara-edu.ac.jp
- ◆問い合わせ 三嶋 真人 〒257-0047 秦野市水神町 5-26 (Tel/Fax) 0463-82-5215 (e-mail) misima@kbd.biglobe.ne.jp